

作成日 2025/04/23
改訂日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	フロンハクリサットアクア
供給者の会社名称	東日本塗料株式会社
住所	東京都葛飾区堀切3丁目25番18号
担当部門	品質保証部
電話番号	0480-65-5880
FAX番号	0480-65-5798
緊急連絡電話番号	0480-65-5880
推奨用途	塗料
使用上の制限	推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家/化学物質専門家等の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約
化学品のGHS分類

健康有害性	急性毒性(経口) 区分4 急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) 区分4 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2A 皮膚感作性 区分1A 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(腎臓 中枢神経系) 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(中枢神経系)
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性) 区分2 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H302+H332 飲み込んだ場合や吸入した場合は有害 H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ H319 強い眼刺激 H336 眠気又はめまいのおそれ H370 腎臓、中枢神経系の障害 H372 長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系の障害 H401 水生生物に毒性

注意書き

安全対策

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260)
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。(P261)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。(P271)

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)

<p>環境への放出を避けること。(P273) 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)</p> <p>応急措置</p> <p>飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。(P301+P312) 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。(P302+P352) 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340) 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338) ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。(P308+P311) 気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312) 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314) 特別な処置が必要である。(P321) 口をすすぐこと。(P330) 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。(P333+P313) 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)</p> <p>保管</p> <p>換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)</p> <p>廃棄</p> <p>施錠して保管すること。(P405) 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)</p>	
---	--

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	混合物 化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
ベンジルアルコール	38~42%	C7H5O	(3)-1011	既存	100-51-6
パラフィンワックス	0.3~0.8%	不明	不明	不明	8002-74-2
アニソール	1~5%	C7H8O	(3)-556	既存	100-66-3

4. 応急措置

吸入した場合

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

特別な処置が必要である。

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

眼に入った場合
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 目の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
 口をすすぐこと。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤
 使ってはならない消火剤
 火災時の特有の危険有害性
 特有の消火方法

この製品自体は、燃焼しない。
 情報なし
 燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。
 消火作業は、風上から行う。
 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
 関係者以外は安全な場所に退去させる。
 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。
 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。
 必要に応じた換気を確保する。
 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
 少量の場合、吸着剤(土・砂・ウエスなど)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取る。大量の水で洗い流す。
 多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。
 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。
 床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。
 漏出物の上をむやみに歩かない。

環境に対する注意事項
 封じ込め及び浄化の方法
 及び機材

二次災害の防止策

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 保護眼鏡、保護面を着用すること。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

急性毒性	経口	急性毒性推定値が1270.2901792mg/kgのため区分4とした。
	経皮	急性毒性推定値が2011.0344828mg/kgのため区分5とした。 JIS Z 7252に採用されていないため区分5から区分に該当しないに変更。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
	吸入	(気体) GHS定義による気体ではない。 (蒸気) データ不足のため分類できない。 (粉じん・ミスト) 急性毒性推定値が4.178mg/lのため区分4とした。 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
皮膚腐食性／皮膚刺激性		眼区分2の成分合計が40%のため、区分2Aとした。
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性		データ不足のため分類できない。
呼吸器感受性		区分1Aの成分が40%のため、区分1Aとした。
皮膚感受性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。
生殖細胞変異原性		毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
発がん性		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
生殖毒性		(生殖毒性) データ不足のため分類できない。 (生殖毒性・授乳影響) データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		区分1(腎臓)の成分が40%のため、区分1(腎臓)とした。 区分1(中枢神経系)の成分が40%のため、区分1(中枢神経系)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		区分3(麻酔作用)の成分合計が40%のため、区分3(麻酔作用)とした。
誤えん有害性		区分1(中枢神経系)の成分が40%のため、区分1(中枢神経系)とした。 動粘性率が不明のため、分類できないとした。
12. 環境影響情報		
水生環境有害性 短期(急性)		(毒性乗率×10×区分1)+区分2の成分合計が40%のため、区分2とした。
水生環境有害性 長期(慢性)		(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が3%のため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
生態毒性		データなし
残留性・分解性		データなし
生体蓄積性		データなし
土壤中の移動性		データなし
オゾン層への有害性		データ不足のため分類できない。
13. 廃棄上の注意		

残余廃棄物 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

汚染容器及び包装 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意
国際規制

海上規制情報
Marine Pollutant
Liquid Substance
Transported in Bulk
According to
MARPOL 73/78,
Annex II, the IBC
Code

非該当
Not applicable
applicable

国内規制

航空規制情報
陸上規制
海上規制情報
海洋汚染物質
MARPOL 73/78 附
属書II 及びIBC コー
ドによるばら積み輸
送される液体物質
航空規制情報

非該当
消防法の規定に従う。
非該当
非該当
該当

緊急時応急措置指針番号

非該当
なし

15. 適用法令
労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2)

ベンジルアルコール

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)

ベンジルアルコール(安衛則別表第2の番号:
1899)(30%-40%)(営業秘密)

皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧)

ベンジルアルコール

皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧)

ベンジルアルコール

労働安全衛生法(令和8年施行分)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2)

ベンジルアルコール

メキシベンゼン(別名アニソール)

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2)

毒物及び劇物取締法	ベンジルアルコール(安衛則別表第2の番号: 1899)(30%-40%)(営業秘密)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	メトキシベンゼン(別名アニソール)(安衛則別表 第2の番号:2184)(5%未満)(営業秘密)
消防法	非該当
外国為替及び外国貿易法	非該当
労働基準法	非危険物 輸出貿易管理令別表第1の16の項 がん原性化学物質(法第75条第2項、施行規則第3 5条別表第1の2第7号)

16. その他の情報

連絡先	東日本塗料株式会社
参考文献	溶剤便覧 製品評価技術基盤機構(NITE) メーカー SDS 日本工業標準調査会「JISZ7253 GHSに基づく化学品 の危険有害性情報の伝達方法、作業場内の表示及 び安全データシート(SDS)」 日本工業標準調査会「JISZ7252 GHSに基づく化学品 の分類方法」 日本塗料工業会編集「容器イエローカード(ラベル方 式)塗料マニュアル 改訂版」 日本ケミカルデータベース製物質データベース
その他	[注 意] 危険性・有害性の評価は必ずしも十分で はありませんので、取扱には十分注意して下さい。 この製品の安全データシートの記載内容のうち含有 量、物理化学的性質などの値は、保証値ではありま せん。 記載内容は現時点で入手できる資料、情報に基づい て作成しておりますが、すべての化学品には未知の 有害性があり得る為、取扱いに当たっては細心の注 意が必要です。 注意事項は通常の取り扱いを対象としたものである 為、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安 全対策を実施の上ご使用下さい。 又それらが実際の使用状況に相応しているか、環境 保護の目的にそっているか、あるいは貴社の従業員 の方々や貴社製品購入者の健康・安全を損なわない か等については、貴社の責任にてご判断願います。